

「ゾンビパック」で 極上のセレブ肌を手に入れる！ 今日から自宅がエステ！

私のゾンビ顔に、
 ヘットの犬が
 驚いて
 暴れました(笑)
 (40歳)

「ほっぺに
 触らせて」と
 友人からいわれた
 自慢の肌です
 (66歳)

「これぞパック！」
 という実感が
 得られます
 (37歳)

引き締める
 パックとは？



ゾンビパックの主成分であるアルブミン（卵白）は
 乾くと縮む性質を持つ。3.5%のアルブミン水溶液を
 薄いシートに塗布したところ（写真左）、時間がたつ
 とシートが縮むことがわかる（写真右）。この性質が
 ゾンビパックの引き締め感につながっている。

今から約30年前、とあるパックが誕生しました。

その名も「ゾンビパック」。

化粧品とは思えない風変わりなネーミング。

そして、家族が笑い、子どもが泣くというパック中のあり得ない顔。

スキンケア用品のさまざまな常識をくつがえす品ながら、
 一度試すとやめられない！ と、多くの女性を虜とりこにしています。

下記の愛用者アンケートでは、5年以上続けている人が

なんと50%近く。口コミで少しずつ広がり、

隠れたロングセラー商品となっているゾンビパック。

自分のゾンビ顔を楽しむのも一興。

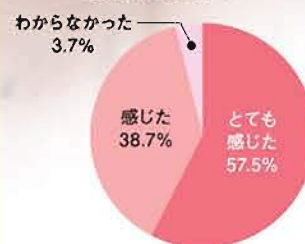
肌の変化を感じてみたい人はもちろんトライの価値あり。

本物の底力を、あなたも体感してください。

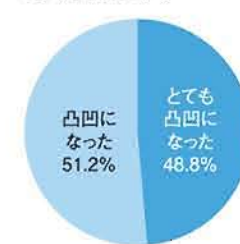
愛用者アンケートから見る「ゾンビパック」の威力

(2012年2~3月に実施。n=80)

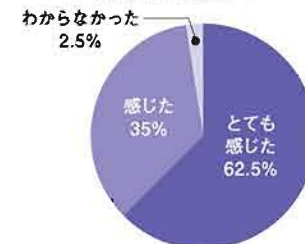
Q. パック後の肌の変化を感じましたか？



Q. 顔が凸凹のゾンビ顔になりましたか？



Q. パック中に引き締めを感じましたか？



山本 国さん



美容家として約30年のキャリアを持ち、
今も忙しい毎日を送る山本さん。
もちまえの美肌と元気のダブル効果で、
78歳という年齢を知ると驚かれることも多いそう。
そんな山本さんに、キレイの秘密を伺いました。

やまもと・くに

1934年生まれ。自らの経験から得た教訓をもとに、素肌の美しさや若さを保つためのさまざまな美容ノウハウを公表。モットーとしている「ノーファンデーションでメイクは口紅だけ」の実践はすでに28年に及ぶ。現在は沖縄に本拠地を移しながらも、後進の指導に精力的に取り組んでいる。国内やスペインでも美容に関する各種ディプロマを取得している(DIPLOME CIDESCO NIPPON,1988.11.30、日本エステティック協会 DIPLOME,1988.11.26、DIPLOME:1992.10.26,Medical Directress of S.O.R INTERNATIONAL S.A)

顔を見られたくなくて
引きこもっていたことも

今年78才になる私は、30年ほど前から、ファンデーションは一切使っていない。もちろん「ノーメイクで口紅だけ」は、最初はすごい勇気がいりました。しかし、慣れると顔が軽く開放感に満ちていて、とてもさわやかな感じ。お顔に余計なストレスもかかりません。

今では、パーティーなどの華やかな場所でも口紅や目もとのポイントメイクだけで、常にすっぴんです。そんな私も、くっついて音から今みたいな肌だったわけではありませぬ。昭和20年代の後半は、肌に合わない化粧品も多くありました。念入りにケアをしても、肌の状態は変わらないばかりが悪化する一方。長い間、肌の手入れの法に悩んでいたのです。

さらには、出産による肌の変化もありました。42歳と4カ月で高齢出産をし、ホルモン(体内の働きを調整する重要な物質)のバランスが

くすれたのか、肌の調子はさらに悪くなりました。忙しい毎日に連れられるうちに「もつメイクで隠せばいいや」という投げやりな気持ちになり、ファンデーションを何重にも塗りたくる日々でした。

そのうち、子どものPTAでは、いつしか陰で「厚塗りのおばさん」と呼ばれるようになっていた。そのせいで息子に「恥ずかしいから学校に来ないで」といわれたときは、本当にショックでした。それから人は顔を見られたくなくて、家に引きこもるようになったのです。

そんな地獄から抜け出すきっかけとなったのは、天然成分をベースとしたソニビバックをはじめとするルビオの化粧品を使い始めたこと。そのとき、私はすでに50代を目前にしていた。

何歳であっても
思い立ったが吉日

やがて、徐々に肌が変わり始め、スキンケアが楽しくなると、皮膚の構造にも興味が出てきました。

時ごろですから、夜は遅くとも21時台には床につくようになります。

こうした生活習慣以外では、心のあり方にも気を配っています。明るく楽しい気分ときは「ドーパミン」や「セロトニン」など、心身によい影響を与えるホルモンが分泌されますから、皮膚にもよい影響を与えます。

それに、優しい顔をしている時間が長ければ、その表情に必要な筋肉が鍛えられ、ますます優しい表情が身につきます。だから、日ごろから心に余裕を持つこと。取り越し苦労でクヨクヨすることは美肌の大敵のひとつです。

趣味を楽しむことも大切ですね。オンとオフの切り替えを上手にすることで、ストレスをうまく解消することもできます。

私も、50歳から人生フルチェンジができました。「厚塗りのおばさん」から、「素肌に口紅だけ」の素肌美を手にすることができたのです。何歳であろうと、思い立ったが吉日です。あきらめないで、自分の肌としっかり向き合いましょー！

78歳の素肌美魔女が自ら証明！ 花を育てるように肌を慈しめば その分肌は応えてくれる

た。そうして皮膚の構造と生理を学び始めたところ、皮膚の一番外側である角質層はなんと0.05mm以下という、信じられないほどの薄さであることがわかりました。今までの自分のケアがいかに手荒なものであったかを痛感。皮膚にとっては最悪のことをしていたんですね。

また、化粧品の成分についても勉強を始めました。自分の肌に合った化粧品を追い求めるうちに「もう特注品を作るしかない」と思うようになり、それがルビオシリーズにつながっていききました(13ページ参照)。

肌を知り、化粧品を知り、自分に合ったケアを始めたことが、今の美肌につながっています。

たとえば、美容成分をチャージするには、皮膚についたほこりや余分な皮脂を落とさなければなりません。ですからスキンケアは洗顔から始まるわけですが、この1mmにも満たない薄い皮膚の表面を、以前はゴシゴシと洗っていたのです。ふきとるときも、これまたタオルでゴシゴシと……。これでは、美肌を作るこ

とはできません。皮膚は花と同じで、生きている細胞。花を育てるように手をかけて肌を慈しめば、そのぶん肌は応えてくれるのだということ。私は身をもって実感しました。また、「顔は内臓の鏡」ともいわれます。不規則な生活で不健康になれば、シワやくすみ、吹き出物となって顔に表れます。どんなにケアを丁寧にしても、土台となる内臓が健康でなくては、荒地地にお花の種をまくようなもので、花も美肌も育ちしないのです。

なかでも重要なのは食事です。私は沖縄に住んでいます。こちらでは「フーチバー」と呼ばれるヨモギをはじめ、栄養価の高い薬草や野菜類が豊富です。これらの野菜や旬の無添加食材を使って、食事は必ず手作りしています。

食事は毎日できるだけ同じ時間に、1日3回、若い人に負けないほどモリモリ食べます(笑)。体のリズムを整えば、ホルモンの分泌もスムーズになり、健康や美肌作りに効果的です。また、体のあらゆる部分メンテナンスされるのは21時〜3

ゾンビパックを行う

II

1



ゾンビパック1包分を小皿に入れ、少しずつ水を入れながらハケで混ぜ合わせます。クリーム状になるまで、丁寧に練り合わせます。パック剤のかたさは、ハケを持ちあげた時にとろーんと落ちる程度に調節してください。



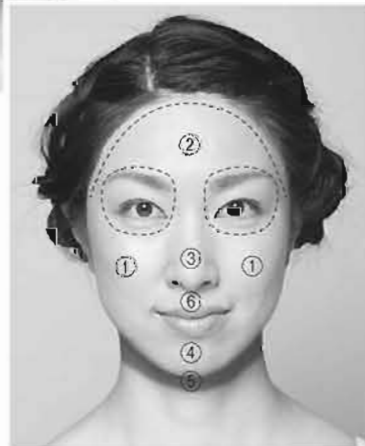
※パック剤が水っぽいと固まりにくくなってしまいます。練乳くらいのかたさを目安にしましょう。

2



1のパック材をハケに取り、すーっとひと塗りする要領で顔に乗せていきます。顔の内側から外側に向かって、塗り残のないようまんべんなく塗布します。ただし、髪の毛の生え際や眉毛、まぶた、唇への塗布は避けてください。パック剤は全部使い切らず、少し残しておいてください。

※慣れないうちは厚塗りしがちですが、白っぽくならない程度の薄さでじゅうぶんです。



※塗布する順番は特にありませんが、乾きにくい部分から塗ると、均一に乾きやすくなるのでお勧めです。[両ほお→額→鼻→あご→あごの下→鼻の下]



ゾンビパックで理想肌に近づく！
付録の使い方を

徹底図解

セントローションを塗る

I

【付録以外に必要なもの】

- ・小皿……1つ
(パックを溶かすために使用)
 - ・水……4～5ml
(ミネラルウォーターや、浄水器でろ過した水を使います。水道水は不適です)
 - ・鏡 ・タオル
- ※そのほか、ご自身の状況に応じて、首の空いた服を着たり、髪の毛を上げるターバンを用意したりするとよいでしょう。

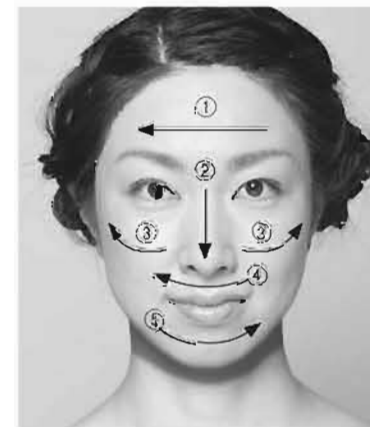
ゾンビパックを行う前は、メイクなどは落としておきましょう。そして、付録の「セントローション」を塗って肌の状態を整えます。付録のセントローションは粘度が高く、表面張力があります。このローションを塗ってからパックを行うと、パックが洗い流しやすくなるというメリットも。トータルで肌を優しく保護するのです。

1

洗顔後、セントローション1ml(付録のボトルを軽く4プッシュする程度の量)を手のひらにとります。両手のひらを合わせ、2～3回くるくると回して手のひら全体にローションを広げます。



2



片方の手をおでこに置いて軽くすーっと横に引き、もう一方の手で鼻すじを優しくなぞります。両方のほおは内側から外側へ手をスライドさせるようにし、鼻の下、あごにも同様に優しく塗布します。

手に残ったローションは、首すじ、デコルテにも塗ります。

ゾンビパック開発秘話

一風変わったネーミングの「ゾンビパック」は、ホラー映画でお馴染みの「ゾンビ」に由来したもの。「パック中の顔がゾンビそっくり」ということはもちろんですが、パックを洗い流して素肌が現れると「まるでゾンビから人間によみがえったみたい」と、試した皆さんが自然と「ゾンビパック」と呼び始めたそうです。

実はこのパックの生みの親は、冒頭インタビューに登場した山本園さんのご主人の林さん。外に出ることを嫌がるようになった園さんを見かねて、あるとき、「私がなんとかしてやるから！」といい出したのです。林さんは皮膚の構造に関する医学書を読みあさったり、同時に化粧品に関するさまざまな文献や資料を取り寄せ、化粧品に配合される一つひとつの成分を調べたりと、研究に没頭しました。

もともと林さんは仕事でヨーロッパを訪れる機会が多く、ハーブ関連の事業に携わる人たちとの親交もありました。そのなかで、ハーブの効用に関する知識や情報も自然と入手していたのです。そして、とうとう「自分で作るしかない」と一念発起。

林さんはハーブや植物エキスについて研究をしている専門家の協力を得て、肌にいい化粧品を作り始めました。植物を中心とした天然成分にビタミンやミネラルを配合し、試作を繰り返す日々——。そして数年後、ついに自然派化粧品「ルリビオ」を完成させました。ゾンビパックも、このシリーズのひとつとして誕生したのです。

パック開発をするにあたり、大きなヒントとなったのは、林さんのお母さんが生前行っていたスキンケアでした。

明治生まれの女性の多くは、物のない時代にも関わらず、つややかでキメ細かい素肌をしていたといえます。林さんのお母さんも、庭にヘチマを植え、茎からヘチマ水を探っていたそうです。そして、そのヘチマ水に卵白を混ぜ、フノリやスギナの汁などを加えてパックをしていました。その手作りパックをしたお母さんは、まさにシワシワのゾンビ顔。林さんも、子ども心にこわかったそうです。

このパックにヒントを得た林さんは、精製された卵白のたんぱく質を主成分に、さまざまな天然成分を配合したゾンビパックの発案に至ったのです。

当初は本当に効果があるのか、疑問も感じたという園さん。それでも林さんが丹精込めて自分のために作りあげてくれた化粧品ですから、夫を信じてテスト使用に踏み切りました。

最初に使ったときは、あれよあれよという間にシワシワのゾンビ顔になり、ドクンドクンと引き締めを感じ「元の顔に戻るのかしら」と不安になったそう。しかし、初めてルリビオを手にしてから3年、半信半疑で使い始めた化粧品が、いつしか自分に欠かせない存在となりました。このころにはもう、スキンケアが楽しくて、鏡の前で「鏡よ鏡！世界で一番美しいのは……？」と話しかけたこともあるのだとか（笑）。

ゾンビパックをはじめ、ルリビオの化粧品は今も常にテストがくり返され、グレードアップが図られています。その一方で、明治の時代から受け継がれてきた美肌ケアの智慧はそのままに、多くの女性の肌を美しくしているのです。

3



塗り終わったら、5～10分ほどそのまま放置します。徐々にパックが縮まり、グーッと引き締められてくるのを感じます。皮膚にも凸凹が現れてきます。

※表情筋がゆるんでいたり、たるみやシワがあったりすると、肌が悪いくところほど凸凹が生じます。肌の悪いところが一目瞭然ですから、老化のパロメーターとしてチェックしておきましょう。

4

パックが乾くにつれて、ところどころにピキッと亀裂が入ります。残りのパック剤を亀裂に重ね塗りして、ヒビをふさぎます。

※パック材が余っているうちは何度でも補修してかまいませんが、あまったからといって無理に顔に厚塗りするのは×。パックの量が多すぎて残ったときは、手の甲などに塗るのがお勧めです。



5



完全に乾いたら、パック材をぬるま湯で洗い流します。

※パック材を落とす際に、ゴシゴシこするのは絶対にNG。お湯でパック材を湿らせながら、ソフトに洗い流しましょう。流す前にハケで水を顔全体に塗ると、ふやけて簡単に落とせます。

※パックを落とす際に洗顔料などを使う必要はありません。

6



お手持ちの化粧水などでお肌を整えて終了です。

【次回のための注意】

パック材が残ってハケが固まってしまい、次回以降使いにくいことがあります。使い終わったハケは半日くらい水につけてから乾かすか、2回目以降、数分水につけてから使うようにするとよいでしょう。